

① 雨にも濡れず！

入社以来皇居二の丸庭園、東京タワー、日比谷公園、お堀端、銀ブラと昼休みを利用してウォーキングを初めて2年近くになる。

夏の厚い時や冬の寒い時、または雨などの時には地下街を歩くことにしている。地下鉄有楽町駅を基点にして、大手町駅、OAZO, JR 東京駅、東京国際フォーラム、ビッグカメラを経由して有楽町駅に帰る周回コースは有難い。当社の庇から地下鉄構内へは数歩、土砂降りの雨でも濡れる心配はない。急ぎ足で40分余り。適当な距離である。寒い日でも帰社する頃には体中が火照ってくる。

地上を歩くと季節の移ろいを直接感じるけれども、地下通路には残念ながらそれはない。然し、構内で面白雑貨と称して面白い小物を売っていたり、通勤用の小物売場があったり、昼休み時であるので、サラリーマンやOLで賑わうお店等を見て、あそこの店が旬なのかな等と感じられ、地上のウォーキングとは一味違う趣きだ。

東京国際フォーラムでの催し物にも成程と思わせるものがある。ベンチャー企業が大集合して合同説明会をやっていたりする。時間があれば覗いて見たい位である。

不思議なもので、人間考えることは同じと見えて、小生と同じく運動靴（勿論革靴を履いている人も居ないわけではないが・・・）を履いて、ウォーキングしている老若のサラリーマンを見かける。コースもその日の気分によって変更したりするので、何時も同じ人に同じ場所で遭遇するわけではない。然し、何時もの人を見掛けないと、ついあの人はどうしたのかなと思ってしまうから不思議な連帯感が醸成されたのだろうか。

地上も地下通路（街）も東京駅を中心にした丸の内界隈が元気である。



東京国際フォーラムの地上の中通路に、お昼時に展開して

いる軽食移動販売車

② 雪にも負けず（日本も捨てたものではない）！

小生は現在マンション管理組合の理事長として慣れぬ仕事をしている。副理事長にI氏が居るが、彼がなかなかの好漢・好青年である。年齢は30代前半か、世界各地の著名な山々を制覇している、山男である。山男というごつい男を想像するが筋骨は隆々でも、温厚で心根の優しい青年である。彼は、山に登るために仕事をしているのだと公言して憚らない。実家は裕福らしいが、親の世話にはならないと中々気骨のあるところを見せている。自営で自ら車に乗って東京・埼玉を走り回っている。帰りは夜中近くになるようだ。時間があるとジョギングではなく駆け足をして体を鍛えているようだ。それもこれも山登りのためなのだろう。

そういう彼が、新潟雪の長岡（？）に雪降ろしのボランティアに行った。帰ってきた彼の話を聞く機会があった。雪の重さにも驚いたようだが、ボランティアとして全国から多数の老若男女が参集していたことにも驚いたようだ。集まった人々の大半は、50・60代のシルバー世代だったと言う。「何回も行けませんね。矢張り金と時間がないとダメなのですかね」と彼。聞けば、往復の運賃とビジネスホテル代2万円は、自分持ちだったようだ。

ボランティアの受け入れ体制が全然出来ていない。少なくとも体育館でも公民館でも良いから宿泊場所を提供すべきではないだろうか。ボランティアだから、全て手弁当、自分持ちであるべきだ等と言う理想を言っても始まらない。金はなくとも時間を何とか捻出して、少しでも困っている方々のお役に立ちたいという若者等の善意を吸い上げてそれを育てることが必要ではなかろうか。体力と気力のある善意の奉仕者をしっかり受け入れる体制・システムを構築すべきである。ボランティアが金と時間のある者のみの専売であってはならない。まだまだ日本ではボランティア活動が普及しているとは言い難い。日本にこの精神を根付かせるために政治や行政は為すべきことがある筈だ。